

新学期 コロナ対策強化

勝浦中 オンライン授業や分割授業



新型コロナウイルスの感染が拡大する中、県内で夏休み明けの学校が再開している。

勝浦市内の小中学校は1日に新学期が始まり、勝浦中（岡安和彦校長、生徒305人）では、1学年ずつの分散登校やオンライン授業、学級を2分割して別々の教室で授業を行うなど強化した新型コロナ対策をスタートさせた。

人数を半分に減らした勝浦中の教室＝1日、勝浦市立勝浦中

この日は3年生だけが登校。十分な距離を取るために1学級を半数に分けて計8教室で授業を行い、給食を食べた。生徒が座らない席には「この机・椅子は使用しません」と張り紙をした。

1、2年生は、学校から持ち帰ったタブレット端末を使い、午前8時5分からオンラインによる朝の会で出欠確認。職員室にいる担任らが、パソコンの分割画面に映る生徒一人一人に「体温は何度？ 体調は大丈夫？」などと呼び掛けて健康観察をした。

オンライン授業は、デジタル教材を活用して学年ごとに全員が同じ教科を受講。教室にカメラ2台が据えられ、教員が大型モニターで生徒たちの様子を確認しながら「終わったら手を上げて」と呼び掛けるなどして授業を進めた。

同校は昨年もWeb会議システム「Live on（ライブオン）」を使って朝の会や集会、運動会などをオンライン配信し



カメラや大型モニターの前でオンライン授業をする教員

たが、授業は初めて。機器操作が不慣れだったり、通信回線の不調で映像や音声にトラブルが生じたりして、慌ただしい新学期となった。

10日まで今の対応を続ける。岡安校長は「コロナの感染拡大は災害級とされ、教職員や生徒には今までと違う行動変容を指導している。しっかり感染防止をしながら、学習環境を確保していきたい」と話した。